

独自の地盤改良工事 開発までの苦心描く



2020年(令和2年)
12月15日
火曜日



尾鍋組が書籍出版 知名度向上で普及へ

土木工事業の尾鍋組(本社松阪市飯高町宮前321の4、電話0598・460234、尾鍋哲也社長、電話0598・460234)は、同社独自の地盤改良工法「エコジオ工法」の開発経緯などをまとめ、出版した。同工法は、杭(くい)やセメントなどの人工物を地中に残さない地盤改良技術で、砕いた自然の石(砕石)を用いる。書籍化することで知名度向上を図り、同工法のさらなる普及を目指す。(松阪・川原和起)

「エコジオ工法の普及につながってほしい」と話す尾鍋社長

エコジオ工法は、スクリーンのついた鉄筒「ケーシング」で地面に穴をあけ、差し込んだ筒に砕石を流し

込む。筒の一部はゴム扉になつており、どの高さからでも砕石を流し込めるのが特長だ。人工物が地中に残らないため、自然にやさしく、土地の価格も下がりにくいという。施工代理店は全国54カ所あり、今月中には同工法の採用実績は2万件を超える見込み。発行した書籍のタイトル

は「住宅地盤イノベーション 地方の土木会社が挑んだ17年の軌跡」。開発に取り組んだきっかけや、共同研究した三重大学大学院の教授をはじめ、開発に携わった多くの企業との出会いなどが描かれている。尾鍋社長は「ストーリー仕立てになっているが、最も伝えたいのは、地盤工事

が与える環境や土地価格への影響。本をきっかけ、エコジオ工法を知ってもらい、普及につながれば」と意気込む。発行は合同フォレスト(東京都)。価格は1500円(税別)。県内の書店や大手インターネット通販などで販売している。